

〔話題〕 亥鼻分館所蔵・医事文化資料について

樋口 誠太郎

要 旨

医事文化資料という、その範囲はかなり広く、多岐に亘っていると考えられる。

亥鼻分館に収蔵されているものも、直接医療に関したのものから世事、不思議、怨霊などを描いたものまで、さまざまなものが収集保存されている。これらを大別すれば、絵画資料と文字（文献）資料に区分することができる。

当館の医事文化資料で注目をひくのは、民間医療に関する「医療習俗」であろう。現時点で見ればなんのことはない一枚の絵が江戸時代末期疱瘡除けの習俗を伝えるものであったり、江戸時代から明治前半期にかけて、多くの薬物販売の広告が収集されているのを見ると当時は医師にかかるより薬を買って服用するのが病気を治す第一歩であったことが、これら広告の宣伝文によく表われている。

本文では、これらをまとめてとりあげたが、「くすりと広告文」だけでも一つのテーマとなるほどであるので、ここでは代表的なものを選んでとりあげた。

文字（文献）資料はさまざまなものがある。ここにとりあげたのは「コロリで死んだ役者が生きかえた」という不思議に、信仰による現世利益を伝えるものや、明治5年当時の木更津県（現・千葉県）が出した「育子告諭」のような貴重な文献資料の存在を紹介した。

また、これらの特色を総体的に見ると、絵と文字が一枚の資料の中に入っていることで、当時の人々の識字能力というのは、かなりのものであったということが判る。

今回本稿では、亥鼻分館に収集された資料のガイドラインを紹介するものである。

1. はじめに

千葉大学附属図書館亥鼻分館で現在古医書の目録作成を行っているが、昨年眼科研究室から以前に収集された江戸時代末期から明治初期にかけての瓦版・版画・広告刷物・絵入新聞・戯画・錦絵・願文・告文・証明書等75点が入ったので、とりあえずこれに『医事文化資料』という名称を付して整理を行った。

大部分のものが和紙の台紙に貼付されていたが、このままでは傷んでしまうので1点ずつ袋に入れ、整理票を付け、下に写真を付けてその中に入っているか、わざわざ出さな

くても判るようにした。また資料中に書かれている文章も「読み下し文」を付け、内容が判るように工夫した。全体的に保存に留意されていたためか、ひどくいたんでいるものはなかった。

本稿は今回、その内容や整理の過程でわかったことを、ここにまとめて紹介したものである。

2. 『医事文化資料』の内容と全体像

今回、亥鼻分館でまとめた仮称・医事文化資料の内容は次に掲げた表1のようなもので「数量」の項に単とあるのは1枚、単片2枚とあるのは1枚の台紙にB6版から旧四六版の印刷物2枚が貼

表1 千葉大学医事文化資料(仮題)一覧

No	題名	分類	版元	印	所在	作者	時代	区分	数量	備考
1	痘疹・麻疹・水痘	版画	両国 太平	本	江戸	五雲亭貞秀	江戸	医事	単	
2	新形三十六怪撰 為朝の武威痘鬼神を退く	〃	佐々木豊吉		東京	芳年		〃	〃	
3	種痘証明書	文書			神奈川		明治8年	〃	〃	神奈川県十全病院
4	麻疹 流行年数	版画	三通・糸庄		江戸	一松斎芳宗	江戸	〃	〃	
5	麻疹養生之伝	〃						〃	〃	全体に不鮮明
6	流行 麻疹けん	〃		亀	江戸	春亭 戯述	文久2年 江戸	〃	〃	
7	安政5年秋片岡仁左衛門 コロリで死去	瓦版			〃		江戸	〃	〃	
8	しんぱん 邪気はらい	〃					〃	〃	〃	
9	京都府より 下京才七区五軒町 家持中	状			京都		明治10年	〃	〃	表彰状・当年長崎より流行し全国にひろがったコレラ
10	神田区衛生会 摂生一口噺	版画	両国 太平		江戸	国周		〃	〃	
11	通俗三国志之内 華陀骨刮関羽箭療治図	錦絵			〃	一勇斎国芳		〃	3	3枚1組 全そろい
12	木曾街道六十九次之内 赤坂 光明皇后	錦絵	伊勢屋	吉		一勇斎国芳	江戸	〃	単	
13	七神ほうそうにうつり 神棚祭り方の法書	刷り物	伊勢屋寛兵衛		日光道 幸手宿		〃	〃	〃	
14	肥後国熊本之元領分 真字郡と申所にて云々	版画	波多野常定		東京 湯島6丁目	波多野常定	明治15年	〃	〃	
15	制札 従去年疫難 村々に来〜	文書						〃	〃	
16	安政5年3月23日の夜なり 云々〜	瓦版						〃	〃	
17	農婦竜交竜子産	版画						怪異	〃	
18	奥州安達郡百目木村百姓 甚平養女 云々	〃						〃	〃	
19	佐藤勇吉事 52才 養老勇扇	広告 版画					江戸	時事	〃	
20	東京くも男 55才 養老勇扇	〃					明治	〃	〃	
21	東京くも男 58才 養老勇扇	〃	須藤万次郎		東京	須藤万次郎	明治17年	〃	〃	
22	養老勇扇	〃			〃		明治22年	〃	〃	
23	横浜病院規則	パン フレット	横浜病院		横浜	横浜病院	明治5年	医事	〃	
24	森田座にて市川団十郎ひろめ申候 山東京山迹	広告 版画	信濃屋四郎 兵衛		東京 京橋	歌川豊国		薬物	〃	
25	家伝秘法 金生丹	〃			奥州 白石 江戸 日本橋	応需・豊国	明治	〃	〃	応需は寿海老人白猿
26	(上) 種痘中心得并に薬物の事 (下) 吾妻桜	広告	上三川 種痘所 精常寿仙		栃木 京都		明治	医事 薬事	単片 2枚	小単片2枚を1枚の台紙に貼付

No	題名	分類	版元	印	所在	作者	時代	区分	数量	備考
27	かいてつがん 蒼鉄丸	広告 版画	大阪堺筋 立志堂	/	大阪 堺	/	明治	薬事	単	広告文なし
28	蒼鉄水, 蒼鉄丸	〃	〃	/	〃	/	〃	〃	〃	
29	岸田吟香取次 延齡散 如神丹外	〃	宝善堂	/	大阪	半山直水 刀工 志保 山芳兵衛	〃	〃	〃	岸田吟香 日本最 初の新聞人, 明治 10年銀座2丁目に 薬店を開業 洋画家岸田劉生は その子ども
30	岸田吟香 楽善堂三薬 補養丸 鎮溜飲 精錡水	〃	楽善堂	/	東京 銀座2 丁目	彫銀	〃	〃	〃	
31	神功無比 精錡水	〃	〃	/	〃	〃	〃	〃	〃	
32	精錡水 楽善堂 三薬 補養丸, 鎮溜飲, 穩通丸	〃	〃	/	〃	〃	〃	〃	〃	
33	東京日々新聞 1015号 はらはら薬	絵入 り新聞	人形町 具足屋	/	東京	一蕙齊芳幾	〃	〃	〃	転々堂戯録
34	西伝名方 奇応丸, 西伝 快通丸	広告 版画	西村峩洋軒	/	京都 三条室 町	瑞彦	江戸	〃	大単	
35	保玉散	〃	堀井	/	東京 麻布	/	明治	〃	単	
36	時疫流行の節此の薬を用ひて その煩をのがるべし	告文		/			江戸	〃	横長	丹羽正伯 望月三 英の名あり
37	(上) さんふの用心 (下) 一家伝来懐妊の妙薬	広告	(上) 矢口京兵衛 (下) 大橋長堂	/	(上) 下総 布川 (下) 野州 都賀郡 川原田 村		〃	(上) 養生 (下) 薬事	2	小単片2枚を1枚 の台紙に貼付
38	安産之節心得の事	告文	松浦琴羽	/	/	/	〃	医事	大単	
39	婦人一代鑑 帯のいわい	版画		/		香蝶楼国貞	〃	〃	単	2枚続きの半分か
40	父母の恩を知る図	版画 (教訓)	山村舎	/	東京	彫銀	明治	〃	3	3枚ワンセット 横長 (カラー)
41	懐妊の心得	〃	浜野貞助	/	京橋区 弥右衛 門町		〃	〃	2	2枚続き, 大 ワ ンセット, カラー
42	妊婦炎暑ノ戯	版画	長谷川真吾	/	東京 小伝馬 町3丁 目16	山村清助	明治14年	〃	2	2枚続き, 大 ワ ンセット, カラー
43	子宝鬼 替うた 老まつ	〃	即席舎筆成	定				社会	2	2枚続き ワン セット カラー
44	育子告諭	告文	木更津県庁	/	千葉 木更津	木更津県庁	明治5年	〃	単	
45	加賀国山中鉾泉試験 成績表	案内	山中温泉 いづみ	/	加賀 山中	山中温泉		医事	〃	温泉の効能を記し たもの
46	四万温泉入浴中心得	〃	田村茂三郎	/	四万 鉾泉元		明治14年	〃	〃	
47	ゆうに出るむすめといふ ふうぜつあり	版画		今		一笑斎		社会	〃	化猫娘のこと
48	鬼娘	〃	丸平			一笑斎		〃	〃	往古よりして鳥獣 魚虫の類…

No	題名	分類	版元	印	所在	作者	時代	区分	数量	備考
49	外面如菩薩内心如夜叉と御仏	〃	応好	大金		国輝	江戸	社会	〃	
50	於尔む巢免 (おにむすめ) 当年十七才	〃	伊勢庄	本		一光齐芳成	〃	〃	〃	
51	鬼の一口ばなし	〃		重		幾丸	〃	〃	〃	
52	鬼娘退治	版画	丸平			重丸	明治	〃	2枚 1組	
53	当時流行 於尔娘 志里取文句	〃	具足屋		人形町	国周	江戸	〃	単片	
54	新聞鬼女噺	〃				国政・静翁	明治9年 5月	〃	〃	
55	京都人形師 大石眼竜斎吉弘	〃	彫、庄治			一勇齐国芳	江戸	〃	〃	
56	妻恋稲荷神主 斎部宿祢守継	願文				斎部宿祢 守継	〃	医事	〃	狐付退散之神勅
57	東都名所 千代田稲荷社	版画	辻岡屋	文	江戸	英斉・芳艶	文久3年	〃	〃	
58	世き事をきくみ、津く花の…	〃		命	〃	国芳	江戸	〃	〃	疱瘡絵、みみづく
59	婢女 於竹之説	〃	小林文正堂		〃	応需・豊国	〃	社会	〃	於竹大日如来
60	於竹 大日如来の伝	〃	山口	ト	〃	一勇齐国芳	〃	〃	〃	〃
61	無題・むかし武州豊嶋郡 宝田に佐久間某	〃	〃	ト	〃	〃	〃	〃	〃	〃
62	老女浅尾	〃	福田熊次郎		東京	豊原国周 荒川八十八	明治9年 7月	芝居	〃	彫栄門、弥太 2銭5厘
63	講談一席話 邑井貞吉 浅尾之局 (尾上菊五郎)	〃	具足屋		人形町	銀光 渡辺 彫栄	〃	〃	〃	文末に魯文述とあり
64	淀之君	〃	土楠 政田屋 板		東京	片田 一魁 齐芳年		〃	〃	一魁随筆
65	善悪児手拍	〃	山本与一		東京 芝 三島町 10番	応需・吟光	明治18年 9月5日	教育	一枚 に2 点入 る	柳水亭種清、文ヲ 記ス
66	無題 築地辺の海中に夜な夜な 鬼火もへ上り	瓦版 刷物							横長 一点	
67	市村座十一月狂言 おらん 中村芝翫	版画	福田初次郎		日本橋 区 長谷川 町19	歌川豊齐筆	明治34年 10月11日	芝居	大単 片	
68	和漢百物語	〃	ツキチ 大金			一魁齐芳年		伝承	単片	隅田了古記 主馬 介 ト部季武
69	東京日々新聞、産婦の霊	〃	具足屋		人形町	片田彫長 一憲齐芳幾	明治	社会	〃	転々堂 鈍々記
70	東京日々新聞、武州秩父郡 911号	〃	〃		〃	渡辺彫栄 一憲齐芳幾	〃	〃	〃	
71	東京日々新聞、戦死した弟の幽 霊 851号	〃	〃		〃	ホリエイ 一憲齐芳幾	〃	〃	〃	
72	両国橋 渡り初め	〃	小西正房		江戸		江戸 安政2年	〃	〃	渡り初めを行っ たためたい家族
73	馬琴著述 椿説 弓張月	〃	森本順三郎		浅草区 瓦町2 番地		明治24年 1月	伝説	〃	
74	近世奇説年表 新徴組	〃	八丁堀 松栄			芳年	明治	歴史	〃	
75	暁斎楽画 11号	〃	神田須田町 沢村		東京 神田	暁斎	〃	〃	〃	旧幕府軍のラッパ 吹き battlefield の事

付してあるもので、3とあるのは3枚で1組（1点）を構成しているものという意味である。

また、特にここに集められたものに『医事文化・』と名を付けたのは表1を見ても判るように、その内容が医事・薬事に関するものだけではなく、非常に広く社会諸生活を取りあげているからでもある。これを総体的にまとめると表2のようになる。

表2 医事文化資料の分類と点数

	分類	点数	備考
1	版画	29	広告外のもの
2	薬物広告	11	
3	広告刷物	6	社会
4	瓦版	5	宗教、芝居
5	錦絵	6	史伝外
6	告文・願文	3	宗教：通達
7	パンフレット	1	病院規則
8	産婦への注意書	7	
9	証明書、文書類	5	種痘証明書など
10	絵入新聞	5	東京日々新聞

注：表1で75点となっているのに、表2では78点となっているのは、前にも述べたように1枚の台紙に2点貼付してあるのをここでは別々にしたためである。

また収集された資料の内容を見ると、図1の絵は一枚ものの痘瘡よけの絵で、江戸時代まで痘瘡絵といわれ、源為朝のような強い武将の絵が家にあると痘瘡神がより付けないと信じられ、こうした絵が売られたものである。医事習俗の資料といって良いであろう。

なお麻疹（はしか）も同様であるが、大人も小児もかかりどちらかというとな人の方が症状が重い。したがって、その養生の仕方を述べたものがいろいろと出たようである。

図2は、ほうそう、はしか、みずほうそうについて描かれた版画である。その中に療養上の注意として「人間一世の大厄なれども其のかるきに至りては服薬を用ひずして治する。其中に稍はげしく熱毒さかに足腰たたず人事を失ひ、夢中の如くなるもあり然れども養生よく専らにする人ハ第一食物を用捨しておのずから全快に至る。はじめ熱有と思ハバよく風にあたらぬやう蚊帳かや又ハ紙帳を用ひ日中も其内に居るべし冷かなるものを食せ



図1 為朝の痘瘡絵



図2 ほうそう、麻疹、みずいも

ず、渴くとも水を呑むこと大にわろし（中略）。

食して悪しきもの

一、鳥類一切、一、玉子百日いむ、一、青物油物は七十五日いむべし、一、豆腐、一、こんにやく、一、そら豆、一、竹の子、一、餅、一、梅ぼし、一、麵るいそんどん（素うどん）はよろし、一、梅漬、一、柿、一、菌きのこるい、一、もみうり、一、茄子の生漬百日いむべし

肥立はらたつかかりて怒かなしむことことを忌むべし又哀事すべて気をつかふ事まぎらせんと雑談又ハ草紙などよみて

たいくつせぬことよろし。(以下略)。」

図3の「流行麻疹けん」は、文久二年(1862)夏の流行に当って売り出されたものである。「けん」は拳相撲の略称で二人以上が互いに手指で種々の形を作り勝負を争う^{あそび}遊戯のことで、これに合わせ前文があり食してあしきもの、食してよろしきものがあげられている。



図3 はやり はしか
流行麻疹けん

図4と図5は、岸田吟香の薬店、楽善堂が販売した薬の広告版画である。吟香は天保4年(1833)岡山県生れで、我が国新聞事業の嚆矢でもある。明治10年(1877)銀座に楽善堂という薬舗を開き、特に精錡水という目薬が売れて、外に、この広告に見られるよう楽善堂三薬が人気の中心であったようである。後には中国にも進出した。

洋画家岸田劉生は吟香の子である。

図6は年号が入っていないが文久3年(1863)のもので、千代田稲荷の靈験を記したものとされている。下に描かれている男性は市村羽左衛門(後の五代目菊五郎)、女性の姿をしているのは三代目沢村田之助で、当時の芝居関係の人々の信心もあったようである。

また、『武江年表』にも「文久三年六月頃より中渋谷千代田稲荷はやり出し云々」とあり当社への信仰がはじまったことが記されている。

なお、こうした寺社・神仏への信仰譚は図7の



図4 岸田吟香薬店販売の薬の宣伝



図5 同 上

瓦版形式のものもある。図7は安政5年(1858)に当時の歌舞伎役者片岡仁左衛門がコロリにかけ死んでしまったが日蓮宗を信仰していたので蘇生したというものである。文面は次のようなものである。「安政五年秋のころ、ごひるきあつき片岡仁左衛門、コロリといへるはやりやまひにとりつかれ、くすりよ、きゆうよとてをつくせどもすこしもしるしなくついにむじょうのかぜにさそわれ、かないのものハもとよりきく人とたもとをしほりける、さてなくなくも、のべのおくりのいとなみなどしけるゆうべ、ふしぎやくくふにおんが

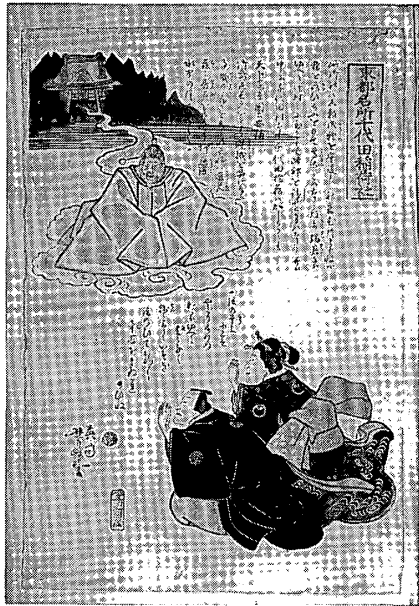


図6 東都名所千代田稻荷社

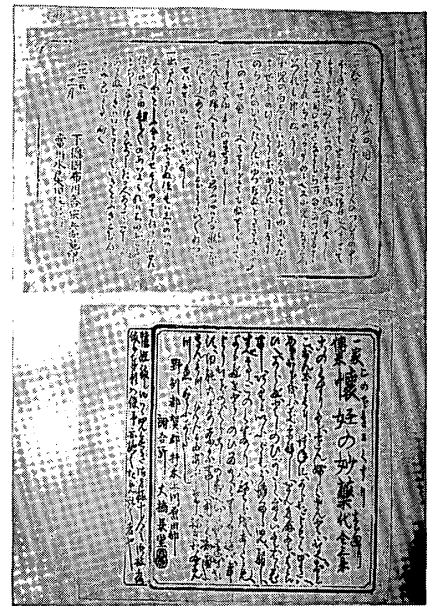


図8 さんふの用じん (上) 懐妊の妙薬 (下)



図7 片岡仁左衛門の事

くきこへ紫雲たなびき日ごろしんじんなす日れん
 大ぼさつあらわれたまひ (中略) ゆめのさめたる
 ごとくよみがへりもとにましたるみうちのすこや
 かになにのよるこび大かたならず。(下略)

この瓦版は、最後に聞く人奇意の思いをなしぬ。南無妙法蓮華経〜とあり、常識では助からない病気で一度死んだが生きかえるというのは当時の人びとにとっては最も関心のあることであったと思われる。

図8は一枚の台紙に、旧四六版とB6版くらいのパンフレットと広告が貼付されているものである。

上の「さんふの用じん」は産婦の出産までの日常の心得を記したもので、弘化4年(1847)11月

のもので、下は年月は判らないがこの薬を服用すれば懐妊疑いなしという広告である。当時から、見る広告と読ませる広告があったことがわかる。これは読ませる広告の方である。

また、一方では母親の胎内で子どもがどのように育っているのかを月別に描き「父母の恩を知る図」として出されていたことがわかる(図9)。

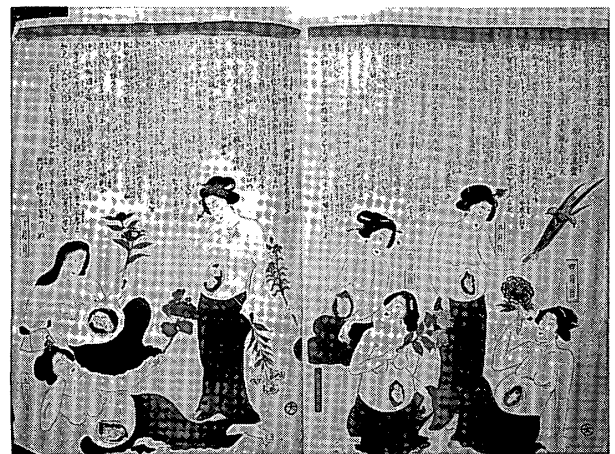


図9 父母の恩を知る図(部分)

図10は明治5年(1872)壬申5月当時の木更津県庁が出したもので、この内容については知られてるが、実物は少ない。ここに内容の一部を引用すると「村々高札の首に人尊ものにて五倫の道を正しくすべき事と示されたり。五倫の第一は父子の親しみこれなり。今や支配所の内貧しきものは



図10 育子告諭 (木更津県 - 現千葉県)

懐妊の中に墮胎し甚だしきハ安産の上^{つぶしころ}拉殺するも
あるよし驚鳥猛獣だも其子を覆育することを知れ
り況して道理を弁へたる人においてをや (下略)
とあり折角授かった子どもを、生活が苦しいか
らといって無下に殺してしまつてはいけない。戸
長・副戸長は良くこのことを理解して村内の人々
に教諭とすようにと告げたものである。

このように身近かなものも収集されている。また、一勇斎国芳の三枚一組の錦絵「通俗三國志之内・華陀骨刮関羽箭療治図」(図11)とか、同じ国芳の錦絵「木曾街道六十九次之内赤坂・光明皇后」(図12)などは特色のあるものである。前者は、伝説の医師華陀に関するもので、後者は仏教を篤く信仰した聖武天皇の皇后、光明皇后の伝承を描いたものである。

文化資料の中には、このように実際にあったことではないが、医療に関係のあるものも収集されている。



図11 華陀骨刮関羽箭療治図 (二枚分)



図12 光明皇后

また医事関係の証明書、規則、願文(図15)なども文化資料の中に収集されている。

これらは幕末期から明治10年代のものが多く、日本の近代医学の創設時代に関する資料も何点か見られる。

幕末まで我が国では、薬種問屋が全国の薬品流通を握り、その宣伝に努めて、一方では祈禱の類が横行し医薬の発展に見るべきものはなかった。こうした宣伝に用いられるのは当時の歌舞伎の人気役者であり、薬物の効能とは何ら関係はないが、図13のように当時の人々は人気役者が宣



図13 家伝・秘法・金生丹



図14 仮題 御葉烟草



図16 鬼娘

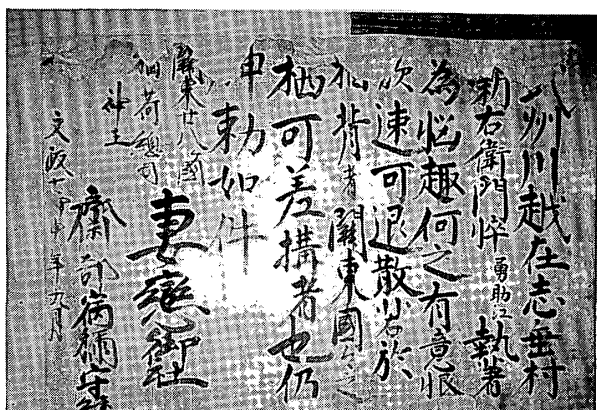


図15 仮題・狐付退散之神勅



図17 おにむすめ

伝しているのだからと言うわけで、お金を出すことになり、仮りに薬が効能を発揮しなくても、それは自分の病気や怪我がひどかったからだとききらめ、(図14)いかかわしい薬物でも薬のせいにはしないというのが当時の傾向であったようである。

明治に入ってから、新政府は近代的医制を確立していくための措置として、大学東校に「売薬取締局」を設け薬剤の検査、漢方の効能、価格などについて出願免許制とした。

また、一方では明治8年(1875)から薬舗開業を希望する者は、算術・物理・化学・薬物学・処方学の5科目の試験に合格し免許を受けることが必要とされた。その後もいろいろな薬品取扱規則などができて我国の薬務行政は、江戸時代末期の

ものとは大きく変化し発展向上した。

また、医事文化資料として収集されたものの中に怪奇現象を題材にしたものが多いことも注目される。テーマは「鬼娘」(図16, 17)、「のろい」(図18)とかいろいろあるが、幕末の不安定期の人心への反映であったのかも知れない。

3. まとめ

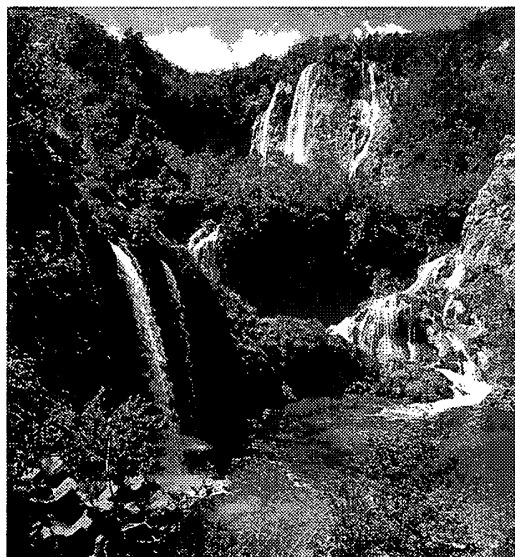
亥鼻分館所蔵の医事文化資料の内容について紹介しようとする、とてもここにとりあげた範囲



図18 のろい

では十分とは言えないと私は考えている。

しかし、概略をわかっていただくことも大切かと考えて、資料の中のほんの一部を引用して紹介してみたものである。それだけでも幕末から明治10年代の医事関係の資料が集められていることや、伝承に基く錦絵などと共に怪奇現象をくわしく伝えているものもある。これらはむしろ社会風俗史に入るものであろうが、今後大別して整理する必要があるかと考えるが今回はとりあえず、全体的な視点から分類整理を行ない、それを紹介してみたものである。



アレルギーの源流に迫る。

好酸球組織浸潤抑制作用と
IgE 抗体産生抑制作用

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

通常、成人にはトシル酸スプラタストとして1回100mgを1日3回毎食後に経口投与する。ただし、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】——抜 粋——

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
肝障害のある患者[肝障害が悪化するおそれがある]

※その他の使用上の注意等は、製品添付文書をご参照下さい。



指定医薬品 薬価基準収載 アレルギー性疾患治療剤

アイピーディ® カプセル 50・100

IPD. capsule 50・100 一般名：トシル酸スプラタスト

製造販売元
資料請求先



大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27